

第5章 将来の事業環境

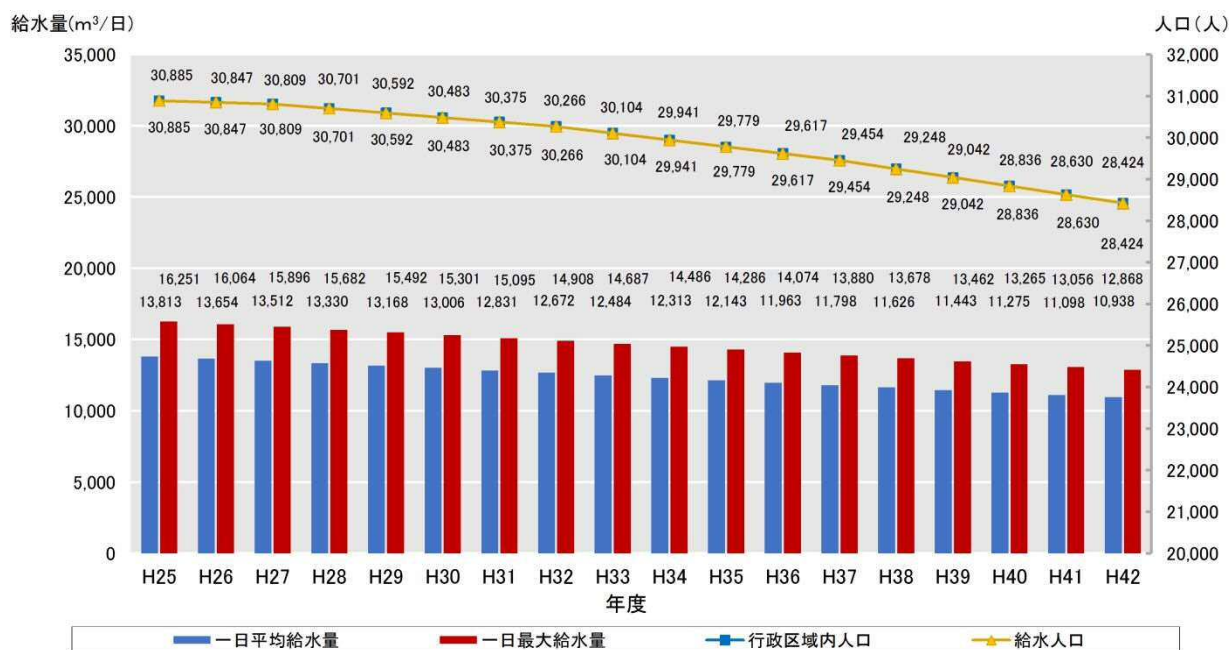


5.1 需要と供給の見通し

全国的に少子・高齢化が進んでおり人口増加が減速し、各地で人口減少に転じている。本町においても同様の傾向を示しており、行政区域内人口は、平成28年度をピークに減少傾向を示し、15年後の平成42年度では、ピーク時よりおよそ2,300人程度が減少するものと推測されました。

また、給水量についても節水機器の普及および節水意識等により生活原単位も減少傾向にあり、全体的に水需要の減、ひいては料金収入の減少が伺えます。

図表 5.1.1 給水人口と給水量の推移



5.2 施設の老朽化

1) 資産の健全度(構造物及び設備)

施設を現在の状態から全く更新を行わなかった場合の資産状況を示します。

【健全資産(法定耐用年数以内)】

- ・ 更新しない場合は、80%程度の状況からスタートし、40年経過すると、なくなってしまう。

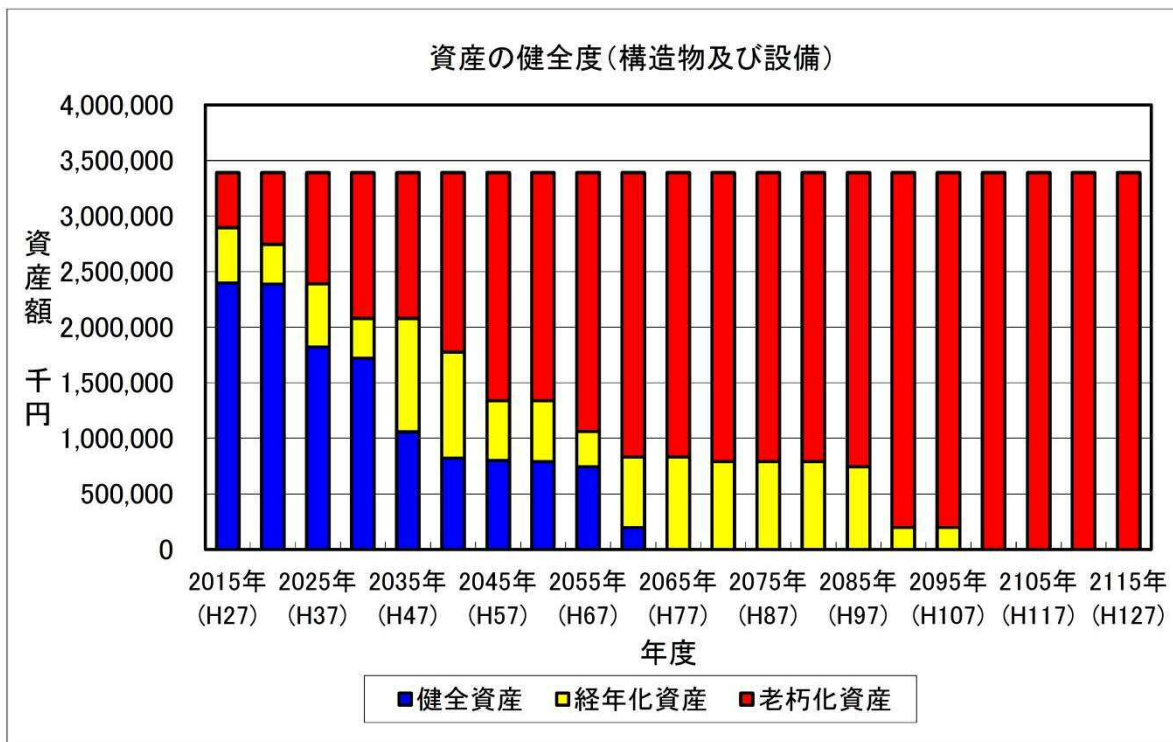
【経年化資産(法定耐用年～1.5倍まで)】

- ・ 更新しない場合、40年後までは常に1～2割程度を占め、80年経過すると、なくなってしまう。

【老朽化資産(法定耐用年の1.5倍～)】

- ・ 更新しない場合は、年数の経過と共に増加し、80年経過すると全てとなります。

図表 5.2.1 資産の健全度（更新を行わなかった場合）



2) 資産の健全度(管路)

管路施設を現在の状態から全く更新を行わなかった場合の資産状況を示します。

【健全資産(法定耐用年数以内)】

- ・ 更新しない場合は、70%程度の状況からスタートし、40年経過すると、なくなってしまう。

【経年化資産(法定耐用年～1.5倍まで)】

- ・ 更新しない場合、60年後までは常に1～3割程度を占め、60年経過すると、なくなってしまう。

【老朽化資産(法定耐用年の1.5倍～)】

- ・ 更新しない場合は、年数の経過と共に増加し、60年経過すると全てとなります。

図表 5.2.2 資産の健全度（更新を行わなかった場合）

